Media Information

2026 年 11 月 21 日

チャーリー・ブルツ選手、第 11 戦は 12 位

オーバーテイクを重ねる攻めの展開も、入賞には届かず

11 月 21 日（土）、2026 年全日本スーパーフォーミュラ選手権ファイナルラウンドとなる 2 レース制の鈴鹿大会が開催され、1 戦目となる第 11 戦で、TEAM GOH（チームゴウ、代表：池田和広、監督：芳賀美里）の 53 号車をドライブするチャーリー・ブルツ選手は、15 番手からスタートし 12 位でフィニッシュしました。



Rd.	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
11	鈴鹿サーキット	31	晴れ	14	21	15	12

※天気、気温、および路温は決勝スタート時

チャーリー選手は予選 Q1 で B グループに出走しました。A グループの Q1 開始時点での気温は 13℃、路温 17℃で、前日のフリー走行に続き冷え込みが強かったため、ウォームを 3 周入れてアタックに入ったチャーリー選手でしたが、クラッシュが発生したため赤旗で中断となり、B グループの Q1 は残り 3 分 10 秒から再開となりました。

チャーリー選手は、中断となったアタックではタイヤのウォームアップもうまくいき、セクター1 を良好なタイムで通過し、Q2 進出へ向けて大きな手応えを得ていましたが、再開後のアタックでは完全にタイヤをあたため切ることができず、8 番手でノックダウンとなりました。

午後の決勝も気温 14℃、路温 21℃と、午前に引き続きタイヤのウォームアップが懸念されるコンディションの中で 15 番手からスタートしたチャーリー選手は、スタートでホイールスピンを喫してしまい、オープニングラップでポジションを 22 番手まで落としましたが、ペース自体は悪くなかったため、その後オーバーテイクを重ね、ピットウインドウが開くまでに 16 番手まで順位を回復させました。

当初の戦略では、車のバランスも良くペースも悪くなかったためステイアウトでいこうとしていたところ、10 周目にセーフティカー（SC）が入ったため、そこでピットインを敢行してアンダーカットに成功し、13 番手で隊列に入ることができました。

隊列前方にはまだステイアウトしていた車が 1 台いたため、リスタート後数ラップで 1 つポジションがあがり 12 番手を走行中、36 号車にオーバーテイクをゆるしましたが、その後、オーバーテイクシステム（OTS）を駆使して抜き返し、12 番手を維持したまま 31 周回を走り切り、チェッカーを受けました。

入賞には届きませんでしたが、今日のレースで手応えをえたチームとチャーリー選手は、予選 Q2 進出と、決勝での入賞を目標に、明日の第 12 戦、今シーズの最終戦に挑みます。



◆ドライバー チャーリー・ブルツ選手 のコメント

「決勝は、クラッチが冷えすぎていたことが原因だと思うのですが、ホイールスピンでスタートから少し苦労して、ほぼ最下位まで落ちてしまいました。でもペース自体はとても良かったので、ピットインする前に何台かポジションを取り戻すことができました。

そしてチームはピットストップで素晴らしい仕事をしてくれて、何台かをアンダーカットすることができました。ピットストップで素晴らしい仕事をしてくれたチームに心から感謝しています。

ただ、今日のように寒いコンディションだと、SC 明けにタイヤの温度を作動域まで上げるのがとても難しかったです。そこは間違いなく難所でしたが、タイヤに少し熱が入ってからは、少しバトルもありました。クルマのフィーリングは良く、ペースも良かったのですが、低速域でアンダーステアに少し苦しみました。そこは明日に向けて改善されると思います。全体的に前を走る車よりペースがあったと思いますが、なかなか抜き切れませんでした。OTS の使い方についてもう少し習熟できていれば抜ける可能性もあったはずですし、また、クリーンエアでのペースはかなり強かったはずです。

入賞にはとどきませんでしたが、今日の 12 位は悪くないと思っています。意味のあるレースでした。常に優勝争いに絡んでいる選手を抜き返せたことも自信につながりました。彼が速いドライバーで、良いクルマに乗っているのはわかっていますし、それはつまり自分たちが確実に進歩して良いところまできているということです。

明日の目標は、予選で Q2 に進出することです。そしてスタートを改善して確実に決められれば、かなり競争力のあるポジションにいけると思います。予選に全力集中、決勝は全力でプッシュして、どこに着地できるか、明日のレースがとても楽しみです。応援よろしくお願いします」





◆チーフエンジニア 柏木良仁 のコメント

「今日の予選は気温、路温を考慮して 3 ウォームアップを入れるプロシージャーにしましたが、結果的にすごく良くて、赤旗が出る前のアタックのセクター1 のタイムだけを見ると、そのまま赤旗なくアタックできていれば、初めて Q2 に行けるのではないかなという手応えがありました。

ただ、赤旗後、残り 3 分 10 秒でタイヤを完全にウォームアップさせてのアタックができず、特にリアのせいでタイムを伸ばせませんでした。内圧は、アタック計測 1 周に向けて追加したりしたのですが、それでも足りなかったのかなと思います。

明日は Q1 で万が一赤旗が出ても、そこをうまくできるように、もうちょっとアジャストできることをしてあげればいいかなと思います。ベースのセットは悪くないと思うので、明日も今日のベースセットにファインチューニングをすることで、明日の予選に挑みます。

午後の決勝は、ここ最近スタートは安定して良くなってきていたのですが、今日の寒さの影響が大きかったのか、ホイールスピンを喫してしまいました。まだデータは見ていないのですが、タイヤを温め切れなかったことに起因しているのかなと推測しています。

オープニングラップでほぼ最下位まで順位を落としましたが、その後ペースは悪くなかったので、何台か SC 前に抜くことができました。ピットインのタイミングについては、クルマのバランスも悪くなかったので少し引っ張る方向で考えていましたが、10 周目に SC が入ったので、そのタイミングでピットに入り、ここで何台かアンダーカットでき、ポジション 13 まで上がることができました。

SC 明け、タイヤのウォームアップが厳しそうだったのですが、何とか抜かれずにポジションキープすることができました。後ろから 36 号車が来て一度抜かれて、このまま離されるのかなと思ったのですが、その後何とか食らいついていくことができ、OTS が、36 号車はほぼ使い切っていて、こちらは結構残っていたこともあり、再び抜き返すことができました。その後、さらに前の車を抜くのは難しく、そのままチェッカーとなりましたが、ペースは良かったと思っています。

クリーンなところで走れたらもう少し前、ポイントを狙えると位置にいると思うので、決勝についても、さらに気候の影響を考慮したアジャストを施し、明日に挑みたいと思います。明日は最後のレースなので、まずは Q2 に進出、決勝も何とかポイントを持って帰りたいと思います」

以　上



